

## Ⅱ 調査結果の要約

---



## Ⅱ 調査結果の要約

### 1. 区民の定住性

#### (1) 居住年数

「5年未満」(34.8%)が3割台半ば近くで最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.2%)を合わせた『短期居住者』(55.0%)は5割台半ばとなっている。また、「30年以上」(11.0%)と「生まれてからずっと」(8.8%)を合わせた『長期居住者』(19.8%)は2割弱となっている。

#### (2) 定住意向

「当分はここに住むつもり」(52.4%)が5割強で最も高く、これに「永住するつもり」(28.4%)を合わせた『定住意向』(80.8%)は約8割となっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.6%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.7%)を合わせた『転出意向』(7.3%)は1割未満となっている。

#### (2-1) 定住意向の理由

「交通網が充実していて便利だから」(84.8%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「勤務先に近いから」(47.5%)、「千代田区が好きだから」(40.8%)、「医療や福祉などの質が高いから」(38.5%)、「教育や学習の機会や場が充実しているから」(28.3%)と続いている。

#### (2-2) 転出意向の理由

「転勤などの仕事の都合」(38.4%)が4割近くで最も高く、次いで「もっと広い住宅に住みたい」(32.6%)、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(25.6%)、「もっと居住環境の良いところに住みたい」(16.3%)、「自分の住宅を手に入れたい」(15.1%)、「もっと日常生活の便利なところに住みたい」(14.0%)と続いている。

### 2. 居住環境評価

#### (1) 周辺的生活環境評価

周辺的生活環境の評価として、「良い」が最も高い項目は“交通の便” (92.3%)で9割強と高くなっている。「悪い」が最も高い項目は“騒音・振動” (11.9%)で1割強となっている。

#### (2) 周辺の居住環境の満足度

「満足している」(53.2%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「大変満足している」(22.1%)を合わせた『満足』(75.3%)は7割台半ばとなっている。一方、「不満である」(4.8%)と「大変不満である」(0.8%)を合わせた『不満』(5.6%)は1割未満となっている。

### 3. 区の施策への要望

#### (1) 力を入れてほしい施策

「防災対策」(38.6%)が4割近くと最も高く、次いで「高齢者施策」(33.7%)、「環境対策」(33.6%)、「まちづくりの推進」(31.3%)と続いている。

## 4. 施策の満足度・重要度

### (1) 施策の満足度・重要度

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”（53.5%）が5割台半ば近くと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”（32.2%）が3割強と最も高くなっている。

「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”（88.6%）が9割近くと最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“男女平等、人権尊重の確立”（16.6%）が1割台半ばを超えて高くなっている。

## 5. 区の施設への要望

### (1) 整備・充実すべき施設

整備・充実すべき施設を第1位から第3位までの順位づけで聞いた。

第1位から第3位までの積み上げでみると、「公園・児童遊園・広場」（35.4%）が最も高く、次いで、「スポーツ施設」（35.1%）、「高齢者福祉施設」（28.6%）、「図書館」（25.1%）、「健康センター、保健・医療施設」（23.3%）の順となっている。

## 6. 広報活動

### (1) 区政情報の取得媒体

「新聞折り込みによる『広報千代田』」が32.2%と最も高いながら減少する一方で、「区のホームページ」が32.1%となり、はじめてほぼ同率に並んだ。また、「区公式フェイスブック・ツイッターなどのソーシャルメディア」は8.6%で過去最高となった。

### (2) 広報千代田の閲読の有無

「読んでいる」が59.0%となり、前年の57.1%から若干増加に転じた。

#### (2-1) 広報千代田の閲読状況

「必要・関心のあるところだけ読む」（58.8%）が6割近くで最も高く、次いで「すべてのページに目を通す」（29.7%）、「写真や見出しを見る程度」（11.3%）と続いている。

#### (2-2) 広報千代田を読まない理由

「入手しにくいから」（33.8%）が3割台半ば近くで最も高く、次いで「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」（33.5%）、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」（20.2%）、「区政に興味がないから」（9.3%）と続いている。

### (3) 自宅での新聞購読の有無

「自宅で新聞を購読していない」が63.0%となり、前年の57.9%からさらに増加している。また、和泉橋地区では72.4%が「自宅で新聞を購読していない」と回答している。

## 7. 町会・ボランティア

### (1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

「参加したことが無く、あまり関心も無い」（40.0%）が4割で最も高く、これに「参加したことは無いが、関心はある」（36.5%）を合わせた『参加したことは無い』（76.5%）は7割台半ばを超えている。一方、「よく参加している」（6.4%）と「何回か参加したことがある」（15.1%）を合わせた『参加したことがある』（21.5%）は2割強となっている。

### (2) 町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野

「地域コミュニティの形成」（38.9%）が4割近くと最も高く、次いで、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の促進」（31.2%）、「地域住民と町会との交流促進」（27.2%）、「NPO・ボランティア等との連携・協働の促進」（21.9%）と続いている。

## 8. かかりつけ医

### (1) かかりつけ医の有無

「はい」（いる）（54.2%）が5割台半ば近く、一方「いいえ」（いない）（45.1%）は4割台半ばとなっている。

#### (1-1) かかりつけ医の医療機関

「診療所」（67.4%）が6割台半ばを超え、「病院」（31.0%）が3割強となっている。

### (2) かかりつけ歯科医の有無

「はい」（いる）（68.8%）が7割近く、一方「いいえ」（いない）（30.8%）は約3割となっている。

## 9. 第二次健康千代田21の中間評価

### (1) 地域の人との関わり

「あいさつをする人がいる」（36.5%）が3割台半ばを超え、次いで、「つきあいはない」（29.3%）、「立ち話をする人がいる」（19.6%）、「相談しあえる人がいる」（13.5%）となっている。

### (2) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の認知度

「知らなかった」（60.7%）が約6割で最も高く、次いで「知っていた」（22.3%）、「内容まで知らなかったが、言葉は聞いたことがある」（16.5%）となっている。

## 10. 自殺対策

### (1) 千代田区自殺対策計画の認知度

「知らないが関心がある」（72.4%）が7割強で最も高く、次いで「知らなく関心がない」（21.6%）、「知っていて意識が高まった」（3.2%）、「知っているが関心がない」（2.0%）となっている。

### (2) 悩みを相談できる人の有無

「いる」（87.5%）が8割台半ばを超え、「いない」（11.4%）は1割強となっている。

### (2-1) 悩みを相談する相手

「家族や親族」(86.0%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「友人や同僚」(72.5%)が7割強と続いている。

### (2-2) 相談内容

「病気・健康の問題」(44.8%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「勤務関係の問題」(44.1%)、「子育ての問題」(25.8%)、「家庭の問題」(24.3%)となっている。

### (3) 悩みを相談する手段

「対面相談」(71.7%)が7割強で最も高く、次いで、「電話相談」(61.2%)が6割強と続いている。

### (4) 自殺を考えたことの有無

「考えたことがない」(72.5%)が7割強で最も高く、次いで、「考えたことがある」(17.1%)が1割台半ばを超えて続いている。

## 11. 男女平等、人権、国際交流

### (1) 性別による不平等を感じることもあるか

「あまり感じない」(35.6%)が3割台半ばで最も高く、これに「感じない」(15.1%)を合わせた『感じない』(50.7%)は約5割となっている。一方、「感じる」(17.7%)と「ときどき感じる」(30.9%)を合わせた『感じる』(48.6%)は5割近くとなっている。

### (2) 人権が尊重されている社会だと思うか

「どちらかというと思う」(51.2%)が5割強と最も高く、これに「思う」(26.0%)を合わせた『思う』(77.2%)は7割台半ばを超えている。一方、「あまり思わない」(18.4%)と「思わない」(3.7%)を合わせた『思わない』(22.1%)は2割強となっている。

### (3) 最も関心のある人権問題

「インターネットによる人権侵害」(17.0%)が1割台半ばを超えて最も高く、次いで「女性」(15.9%)が1割台半ばとなっている。

### (4) LGBTsについて正しく理解したいと思うか

「思う」(42.8%)が4割強と最も高く、これに「どちらかというと思う」(34.2%)を合わせた『思う』(77.0%)は7割台半ばを超えている。一方、「あまり思わない」(16.1%)と「思わない」(6.2%)を合わせた『思わない』(22.3%)は2割強となっている。

### (5) 同性のパートナーの権利について

「思う」(48.3%)が5割近くと最も高く、これに「どちらかというと思う」(31.8%)を合わせた『思う』(80.1%)は約8割となっている。一方、「あまり思わない」(12.8%)と「思わない」(6.0%)を合わせた『思わない』(18.8%)は2割近くとなっている。

### (6) 平和事業への参加の有無

「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」(46.9%)が4割台半ばを超えて最も高く、これに「参加したことはない(知らなかった)が、今後は参加してみたい」(37.1%)を合わせた『参加したことがない』(84.0%)は8割台半ば近くとなっている。一方、「参加したことがあり、今後も参加したい」(3.5%)と「参加したことはあるが、今後は参加したくない」(0.9%)を合わせた『参加したことがある』(4.4%)は1割未満となっている。

### (6-1) 参加したことがある平和事業

「戦没者追悼式」(57.7%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「平和イベント(平和啓発展示または映画上映会)」(44.2%)が4割台半ば近くとなっている。

### (7) 国際交流や平和関連の事業への参加の有無

「ない」(87.4%)が8割台半ばを超えて高くなっており、「ある」(9.6%)は1割未満となっている。

### (8) 区在住の外国人との交流意向

「機会があれば交流したい」(51.5%)が5割強と最も高く、これに「積極的に交流したい」(9.8%)を合わせた『交流したい』(61.3%)は6割強となっている。一方、「あまり交流したくない」(9.7%)と「交流したくない」(4.9%)を合わせた『交流したくない』(14.6%)は1割台半ば近くとなっている。

## 12. スポーツ実施率

### (1) 運動・スポーツを行う頻度

「30分以上の運動を週2回以上」(28.7%)が3割近くと最も高く、これに「週2回以上」(14.9%)と「週1回程度」(20.3%)を合わせた『週1回以上』(63.9%)は6割台半ば近くとなっている。

## 13. まちづくりの進め方について

### (1) まちづくりをより良くするために必要なもの

「各地域のまちづくりに関連するデータの公開」(47.5%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「住民と行政がまちづくりを議論する場」(41.9%)が4割強と続いている。

### (2) まちづくりのために取り組むべき具体的施策

「敷地内を緑化する等、環境に配慮した建築物の誘導」(61.1%)が6割強と最も高く、次いで「にぎわいや回遊性の創出に向けた、ゆとりある歩行者ネットワークの形成」(41.2%)、「土地の有効活用・高度利用の推進」(35.4%)と続いている。

## 14. 地区計画などのまちづくりルール

### (1) 「地区計画」の認知度

「知らない」(76.3%)が7割台半ばを超えて高く、次いで「定められていることを知っている」(20.6%)、「定められていないことを知っている」(1.7%)となっている。

#### (1-1) 「地区計画」の内容の認知度

「内容を知らない」(71.4%)が7割強と高くなっており、「内容を知っている」(26.6%)は2割台半ばを超えている。

#### (1-2) 「地区計画」の内容の満足度

「満足している」(57.8%)が5割台半ばを超えて高くなっており、「満足していない」(37.5%)は3割台半ばを超えている。

#### (1-3) 「地区計画」の変更の必要性

「変更する必要がある」(46.9%)が4割台半ばを超えて最も高く、「変更する必要はない」(25.0%)が2割台半ばと続いている。

(1-4) 「地区計画」の新規策定の必要性

「新たに定める必要がある」(65.0%)が6割台半ばと高くなっており、「新たに定める必要はない」(35.0%)は3割台半ばとなっている。

(1-5) 「地区計画」に必要なルール

「健全な地域環境の維持・形成を図るため建築物の用途を制限すること」(63.1%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「居心地のよい空間を感じられるよう敷地内の緑化を推進すること」(60.9%)が約6割で続いている。

## 15. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知状況

「知っている」(74.9%)が7割台半ば近く、「知らない」(24.7%)が2割台半ば近くとなっている。

(2) 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策

「一部の家具などにしている」(60.6%)が約6割で最も高く、これに「すべての家具などにしている」(8.5%)を合わせた『安全対策をしている』(69.1%)は7割弱となっている。一方、「まったくしていない」(30.3%)は約3割となっている。

(3) 洪水などの災害リスクの認知度

「知っている」(65.5%)が6割台半ば、「知らない」(33.8%)が3割台半ば近くとなっている。

(4) 災害が起きた時の避難方法

「在宅避難」(62.2%)が6割強と最も高く、次いで「避難所へ避難」(24.0%)が2割台半ば近くとなっている。

(5) 地震などの災害に備えて備蓄しているもの

「飲料水」(75.1%)が7割台半ばと最も高く、次いで「懐中電灯」(69.8%)、「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品など)」(67.3%)、「マスク」(63.7%)と続いている。

(5-1) 災害に備えた飲料水・食料品・携帯トイレの備蓄状況

“飲料水”の備蓄状況は、「3日以上」(59.7%)が6割弱、「1日分～2日分」(40.2%)が約4割となっている。

“食料品”の備蓄状況は、「3日以上」(54.4%)が5割台半ば近く、「1日分～2日分」(43.7%)が4割台半ば近くとなっている。

“携帯トイレ”の備蓄状況は、「1日分～2日分」(53.4%)が5割台半ば近く、「3日以上」(43.5%)が4割台半ば近くとなっている。